

作業指示書(工注設定表) 記入の手引き

2010年10月

株式会社 日立ソリューションズ

工注情報定義についてP 2

オプション機能

着信者情報設定 【オプション機能】P 6

BSC 発信先情報設定 【オプション機能】P 7

ダイヤル拡張情報設定 【オプション機能】P 8

標準構成とオプション機能についてP 9

標準構成 [DCE モード用 … WAN 側が全銀 TCP 手順の場合]P 10

DTE オプション対応構成 [DTE モード用 … WAN 側が全銀 BSC 手順の場合]P 14

工注情報定義について

本製品に設定をする項目は、下表の通りとなります。工注情報設定の際、ご参考ください。

(1) 共通設定項目

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明	
【共通項目】					
1	インターフェイス設定	【DCE】BSC+LAN	<ul style="list-style-type: none"> ・【DCE】BSC+LAN ・【DCE】BSC+PPP ・【DCE】BSC+BSC+LAN ・【DCE】BSC+PPP+LAN ・【DTE】BSC+LAN ・【DTE】BSC+BSC+LAN ・【DTE】BSC+PPP ・【DTE】BSC+PPP+LAN ・【DCE+DTE】BSC+BSC+LAN ・【DTE+DCE】BSC+BSC+LAN 	<p>運用するインターフェイスを設定します。</p> <p>※BSC+PPP+LANの構成は、PPP/LANどちらでも着信(発信)可能ですが、同時に通信は行えません。</p> <p>〔先に接続された回線が有効になり、後からの接続は拒否します。〕</p>	
2	トレースデータ 回避サイズ	TCP側	14	0～4,096 (バイト)	<p>送受信データをトレースに残さない場合は、「0」を設定します。デフォルト値は、サブレイヤヘッダ(8バイト)+TTCヘッダ(5バイト)+電文区分(1バイト)となっております。</p> <p>※02-00よりの追加項目</p>
		BSC側	6	0～4,096 (バイト)	<p>送受信データをトレースに残さない場合は、「0」を設定します。デフォルト値は、TTCヘッダ(5バイト)+電文区分(1バイト)となっております。</p> <p>※02-00よりの追加項目</p>
【TCP側共通項目 (LAN使用時/PPP使用時)】					
3	着信ポート番号	5020	—	TCPクライアントからの接続先ポート番号を設定します。	
4	最大テキスト長	2,048 Byte	128/256/512/1,024/2,048/4,096/8,192 (Byte)	TCP側の最大テキスト長を設定します。(SH+TTCを含まないサイズ)	
5	連続受信回数	0回	0～15回	連続受信回数を設定します。	
6	無通信タイマ	60秒	0～999秒	TCP側で使用する無通信タイマー。	
7	TCP-RESETパケット 送信抑止	する	する/しない	<p>待ち受けていないポートへの接続要求に対してRESETパケットを送信して拒否するか無視するかを設定します。</p> <p>※PPP設定で、相手側がルータの接続だった場合、コンバータが準備中に接続要求をRESETパケットで拒否する場合がありますので、この場合は、「送信抑止する」を選択してください。</p>	

(2) LAN 環境を使用する場合の設定

【 LANを使用する場合の設定 】

LAN速度: Auto Mode LAN障害監視(DTEモードのみ): 監視しない Ping監視時間(秒)/回数/監視先IP: 15 / 4 / Link-Down監視時間(秒): 60

自己IP(PORT1側): 192.168.10.100 自己IP(PORT2側): PORT1と共有 サブネットマスク: 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ: 0.0.0.0 障害通知先IP/ポート番号: /

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明
1	LAN 速度	Auto Mode	<ul style="list-style-type: none"> ・10 Half Mode ・10 Full Mode ・100 Half Mode ・10 Full Mode ・Auto Mode 	10Mb・Half／Full, 100Mb・Half／Full, Autoより選択可。
2	自己 IP アドレス (PORT1 側)	192.168.10.100	—	TCP クライアントからの接続先 IP アドレスを設定します。
3	自己 IP アドレス (PORT2 側)	PORT1 と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・PORT1 と共有 ・個別 IP 設定 	<p>《PORT1 と共有》を選択した場合は、LAN 設定で定義してある自己 IP アドレスを PORT1 と PORT2 で共有して使用します。</p> <p>《個別 IP 設定》を選択した場合は、PORT1 用の IP アドレスは LAN 設定の自己 IP アドレスが割り当てられ PORT2 の自己 IP アドレスは、ここで設定した IP アドレスが割り当てられます。</p>
4	サブネットマスク	255.255.255.0	—	サブネットマスクを設定します。
5	デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0	—	デフォルトゲートウェイを設定します。
6	障害通知先 IP アドレス	—	—	通信エラーが発生した時の情報を指示された相手 (監視 PC) へ通知します。
7	障害通知先ポート番号	—	—	同上
8	LAN 障害監視 (DTE モードのみ)	監視しない	<ul style="list-style-type: none"> ・監視しない ・Ping 監視(下記参照) ・Link 状態監視(下記参照) ・Ping 監視／Link 状態監視(両方) 	
	《Ping 監視の場合》			・指定された監視対象機器 (IP アドレス指定) へ定期的に本装置から Ping コマンドを実行し、応答監視を行います。
	・監視感覚時間	15 秒	—	
	・無応答時のリトライ回数	4 回	—	・規定時間内に応答がない場合、LAN 障害と判断します。(※1)
	・監視先 IP アドレス	—	—	
《Link 状態監視の場合》			・本装置の LAN コントローラの Link 状態を監視して、Link-Down 状態であるか監視します。	
・Link-Down 監視時間	60 秒	—	・Link-Down 状態が規定時間分続いた場合、LAN 障害と判断します。(※2)	

※1 LAN 障害要因 … ①L2-SW(HUB)障害 ②ルータ障害 ③監視機器障害 ④ TP ケーブル抜け 等

※2 LAN 障害要因 … ①L2-SW(HUB)障害 ②TP ケーブル抜け

※本装置では使用しません。(拡張用)

(3)BSC 側設定 <PORT1 or PORT2>

【 BSC設定 <PORT 1> 】

伝送速度 回線種別 通信制御 SYN文字数 最大テキスト長
 9.6Kbps 公衆 全二重 3 2048

送受信クロック 回線構成
 ST2(DCE) V.25 CS-CD制御 文字制御

【 送信時のデレイオプション(単位ms) 】
 RS(CD)信号ONデレイ時間 0 送信開始デレイ時間 0

【 DTE設定1 <BSC側着信→TCP接続> 】
 接続先IPアドレス / ポート番号
 /
 V.25bis設定で着信時CICコマンド送信

【 DTE設定2 <TCP側着信→BSC接続> 】
 発信先番号

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明	
1	伝送速度	9.6 Kbps	2.4K / 4.8K / 9.6K / 19.2K / 38.4K / 57.6K / 64.0K (bps)	本製品と BSC 側との通信速度を設定します。	
2	回線種別	公衆回線	公衆回線 / 特定回線	回線種別を設定します。	
3	通信制御	全二重	半二重 / 全二重	通信制御を設定します。	
4	SYN 文字数	3 個	2 個 ~ 10 個	同期確立文字数を設定します。	
5	最大テキスト長	2,048 Byte	128 / 256 / 512 / 1,024 / 2,048 / 4,096 / 8,192 (Byte) ※	BSC 側の最大テキスト長を設定します。 TCP 側の最大テキスト長より、この値が小さい場合、BSC 側への送信テキストは ETB 分割されて送信されます。(TTC を含まないサイズ) ※02-00 よりの追加項目	
6	送受信クロック	ST2(DCE)	・ST1(DTE) ・ST1(DCE) ・ST2(DTE) ・ST2(DCE)	送受信クロックを設定します。 回線構成が DTE モードで X.21 インターフェイスの場合は、ST1(DCE) に設定し、ディップスイッチも DCE 設定にしてください。 (本設定により TA 側 ST2 クロックでの同期となります。)	
7	回線構成	V.25	V.25 / V.25bis / X.21	本製品 ⇄ BSC ホスト間の回線構成を設定します。	
8	CS-CD 制御 (V.25bis 使用時)	—	なし / あり	発信 / 着信処理時、CS-CD 制御を行うかを設定します。	
9	文字制御 (V.25bis 使用時)	—	なし / あり	接続 / 着信処理時、INC 文字又は CRN 文字制御を行うかを設定します。 BSC 発信機能(オプション)を使用する場合は「あり」に設定してください。	
10	送信時の デレイ オプション	RS(CD)信号 ON デレイ時間	0	—	半二重モデム(TCOM56KFHA)を使用する場合に設定します。(30ms 以上を設定してください。) 他の DCE 機器を使用する場合は、設定する必要はありません。 ※02-00 よりの追加項目
11		送信開始 デレイ時間	0	—	相手局の送受信切替が遅い場合に本項目を設定して、デレイ処理を有効にします。 ※02-00 よりの追加項目
12	DTE 設定 1	接続先 IP アドレス	—	—	BSC 側で着信後、TCP サーバへ接続する場合の相手先 IP アドレスを設定します。
13	BSC 側着信 ↓ TCP 接続	接続先ポート番号	—	—	※02-00 よりの追加項目
14		V25bis 設定時 着信時 CIC コマンド 送信	なし	なし / あり	DCE 機器からの着信通知時、CIC コマンドを送信するかを設定します。 ※02-00 よりの追加項目
15	DTE 設定 2 TCP 側着信 ↓ BSC 接続	発信先番号	—	(42 バイトまで設定可能)	TCP クライアントより接続後、BSC 側ヘダイヤル発信を行う電話番号を設定します。 ※02-00 よりの追加項目

(4)PPP 側設定 <PORT2>

【 PPP設定 <PORT2> 】

ご使用TA / モデム 伝送速度 回線種別

初期化ATコマンド1/2

自己IP (PPP用) アドレスフィールドの圧縮 TCP/IPヘッダの圧縮 マジックナンバーの使用 DR信号チェック

リモート側割当てIP リモート側からの静的IP接続許可

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明
1	ご使用 TA/モデム	NEC 製 TA Aterm シリーズ	・その他の一覧未登録 TA/モデム ・日立コム製 TA ・日立コム製 TA (DR 有) ・NEC 製 TA Aterm シリーズ ・オムロン製モデム ・オムロン製モデム(DR 有)	使用する TA/モデムの種類を選択しますと、初期化 AT コマンドを自動的に設定します。
2	伝送速度	115.2K bps	2.4K/4.8K/9.6K/19.2K/ 38.4K/57.6K/64.0K/ 115.2K (bps)	本製品と TA/モデム間の通信速度を設定します。 現行システムでの速度設定をご確認ください。 参考値 ・TA をご使用する場合 115.2Kbps ・モデムをご使用する場合 57.6Kbps 又は 38.4Kbps
3	回線種別	トーン	パルス/トーン	使用する回線の種類を設定します。
4	初期化 AT コマンド 1	ATQ0V1X3\$N1=1	—	本製品と接続するモデム/TA を初期化する為の AT コマンドを設定します。(最大 25 バイト)
5	初期化 AT コマンド 2	ATS0=0&K3W2	—	本製品と接続するモデム/TA を初期化する為の AT コマンドを設定します。(最大 25 バイト)
6	自己 IP (PPP 用)	192.168.100.100	—	コンバータ側に割り当てる IP アドレスを設定します。
7	アドレスフィールド圧縮	圧縮あり	圧縮あり/圧縮なし	—
8	TCP/IP ヘッダ圧縮	圧縮あり	圧縮あり/圧縮なし	—
9	マジックナンバー使用	使用しない	使用する/使用しない	PPP 接続においてマジックナンバーオプションを使用する場合に設定します。
10	DR 信号チェック	あり	なし/あり	回線切断時の DR 信号のチェックを行うか設定します。 『あり』の場合 回線が正しく切断された事を確認 (DR 信号 OFF) してから通信開始可能状態とします。(最大 3 分間待機) 『なし』の場合 DR 信号の OFF チェックを行わず、通信可能状態とします。
11	リモート側割当て IP	192.168.100.101	—	リモート側に割り当てる IP アドレスを設定します。(リモート側に 0.0.0.0 を設定した場合は、リモート側が要求する IP アドレスになります。)
12	リモート側からの静的 IP 接続を許可	許可する	許可しない/許可する	リモート側から静的 IP での接続要求があった場合、項番 2 の設定内容を無視してリモート側の要求する IP での接続を許可します。



着信者情報設定【オプション機能】

p20zwt.exe

このプログラムは、本製品に PPP 接続を行う場合、ユーザ ID 及びパスワードでの認証処理を行えるように設定するプログラムです。最大 1000 件まで登録することが可能です。認証方式には、PAP/CHAP の何れかを選択出来ます。又、着信者情報のクリアを行うと、認証を行わない設定になり全ての着信要求が有効になります。

※ 認証方式で、認証を行う場合、PAP/CHAP の混在指定は出来ません。

着信者情報設定一覧表

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明
1	工注設定用接続先コンバータ IP	192.168.100.100	—	—
2	認証方式	CHAP	PAP/CHAP	認証方式を設定します。
3	認証ユーザ ID	—	—	認証ユーザ ID を設定します。 (最大 30 バイト)
4	認証パスワード ※任意	—	—	認証パスワードを設定します。 (最大 30 バイト)

(最大 1000 件)



BSC 発信先情報設定 【オプション機能】

p20zcn.exe

このプログラムは、BSC 側からの発信オプションをサポートしている場合に使用します。この設定を本製品に登録すると、BSC 側からの発信要求 (V.25bis) で渡される電話番号をキーにして発信先情報を検索し、該当する条件へ接続を試みます。又、最大 500 件まで登録可能です。

発信先情報設定一覧表

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明	
1	工注設定用接続先コンバータ IP	192.168.100.100	—	—	
2	接続方法	LAN 接続	LAN 接続 / PPP 接続	接続方法を設定します。	
3	発信先電話番号	—	—	発信先の電話番号を設定します。 (テーブル検索キーとなります。) (最大 40 バイト)	
4	接続先 IP アドレス	—	—	接続先の IP アドレスを設定します。	
5	ポート番号	5020	—	接続先のポート番号を設定します。	
6	PPP 接続 オプション	アドレスフィールドの圧縮	圧縮あり	圧縮あり / 圧縮なし	アドレスフィールドの圧縮を行うか設定します。
7		TCP/IP ヘッダの圧縮	圧縮あり	圧縮あり / 圧縮なし	TCP/IP ヘッダの圧縮を行うか設定します。
8		発信者番号通知	非通知	非通知 / 通知	「186」を付加するか設定します。
9		認証方式	認証なし	認証なし / PAP / CHAP	認証方式を設定します。
10		認証ユーザ ID	—	—	PAP か CHAP 認証を行う時のユーザ ID を設定します。(最大 30 バイト)
11		認証パスワード	—	—	PAP か CHAP 認証を行う時のパスワードを設定します。(最大 30 バイト)
12		コンバータ側 IP アドレス指定	接続先が割当てた IP アドレス	接続先が割当てた IP アドレス / IP アドレスを指定する	PPP 接続を行う場合、本製品へ割り当てる IP アドレスを接続先より割り当ててもらうか、自分で定義するかを設定します。

(最大 500 件)



ダイヤル拡張情報設定【オプション機能】

p50mz_ex_dial.exe

ダイヤル拡張情報設定一覧表

項番	項目	デフォルト値	設定内容	説明
1	工注設定用 接続先コンバータ IP	192.168.100.100	—	—
2	ポート振分け方法	ラウンドロビン方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ラウンドロビン方式 ・CH1 優先 ・CH2 優先 ・CH1 固定 ・CH2 固定 	シリアル回線ポートを交互に使用します。 シリアル回線のポート1を常に優先して使用します。 ポート1が使用中の場合には、ポート2へスライドして 使用します。 シリアル回線のポート2を常に優先して使用します。 ポート2が使用中の場合には、ポート1へスライドして 使用します。 シリアル回線のポート1のみを使用します。 ポート1が使用中の場合は、接続エラーとなります。 シリアル回線のポート2のみを使用します。 ポート2が使用中の場合は、接続エラーとなります。
3	待受け用追加 IP アドレス	—	—	IP アドレスを設定します。 (工注設定と同じネットワークグループの IP アドレスを 指定してください。)
4	ポート番号	5020	—	ポート番号を設定します。
5	発信先電話番号	—	—	電話番号を設定します。 (テーブル検索キーとなります。) (最大 40 バイト)
6	発信者番号通知	—	—	—

(最大 50 件)

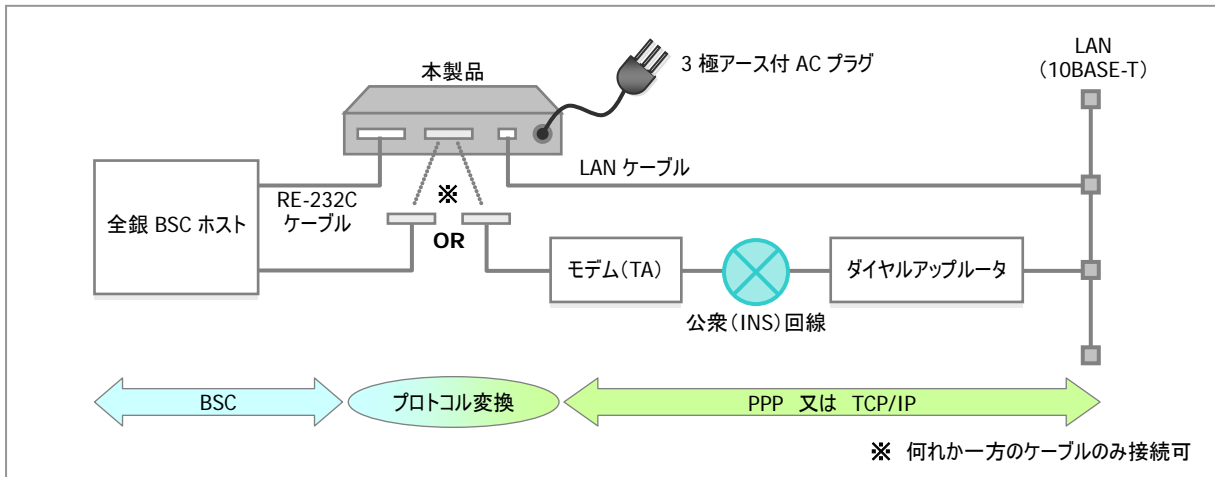
接続構成とオプション機能について

この章では、本製品についての接続構成とオプション機能について説明致します。

標準構成（DCE モード用）



本製品は、図の如く、ホスト側の全銀 BSC プロトコルをモデム (TA) 又は LAN 回線を介して、全銀 TCP/IP プロトコルに変換します。オプションにより、ホスト側における BSC の 2 回線のサポートや PPP+LAN の同時サポートも行うことができます。

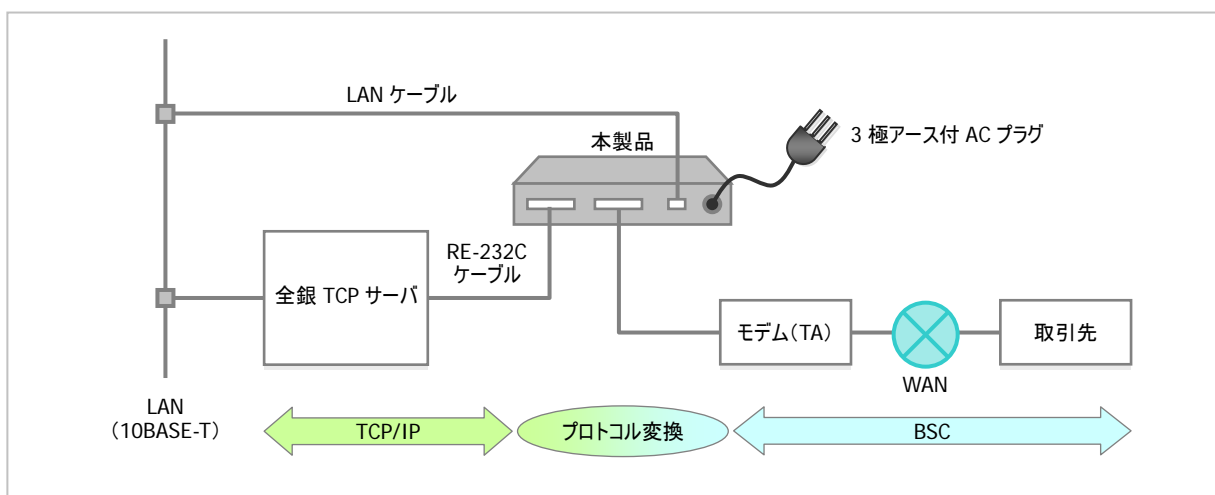


標準構成例

DTE オプション対応構成（要 DTE オプション）



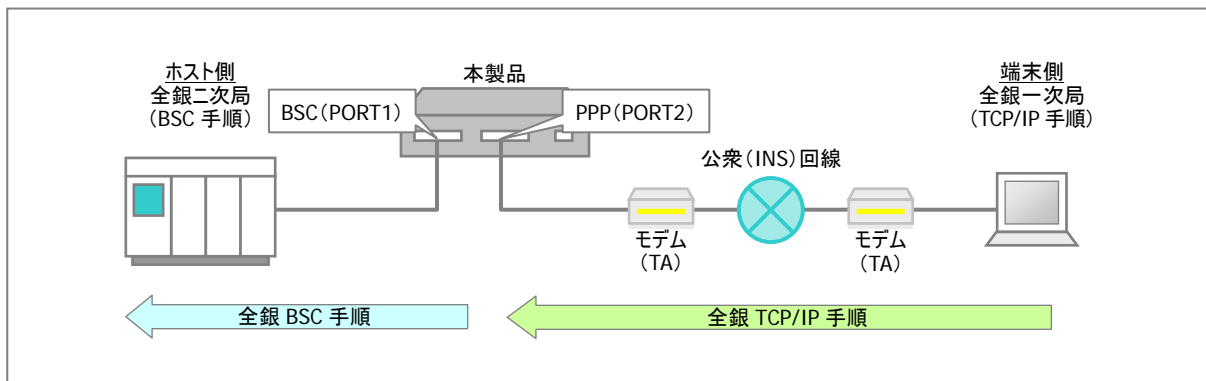
DTE モードオプション使用時の構成は、図の如く、全銀 BSC プロトコルを LAN 回線を介して、全銀 TCP/IP プロトコルに変換します。



DTE オプション対応構成例

標準構成 1 BSC 回線と PPP 接続(モデム/TA)の組合せの場合

[DCE モード用]



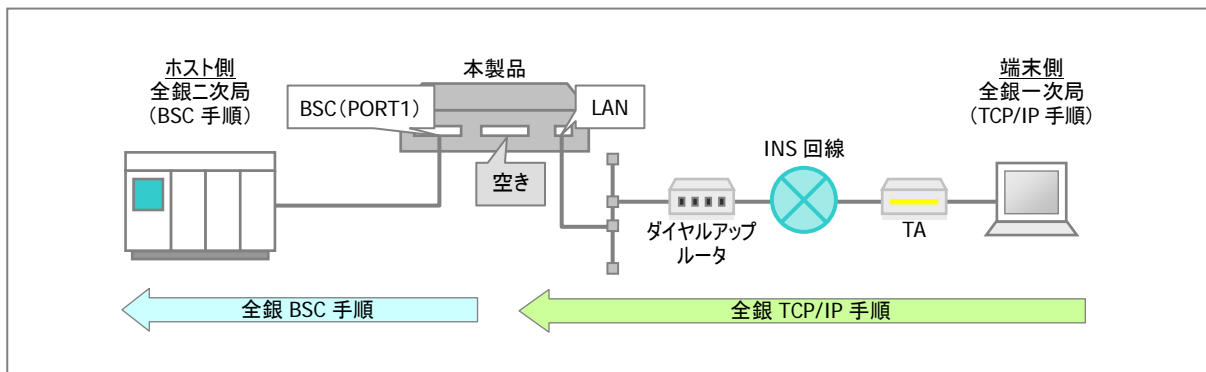
全銀手順の一次局(発信側)を全二重非同期モデム又は TA で着信し、コンバータで TCP/IP→BSC 変換を行い、ホスト側へ接続します。

注意

コンバータは V.25/V.25bis の発着信手順をエミュレーションしますので、ホスト側は従来の同期式モデム又は TA と同じ環境設定のまま、変更する必要はありません。

標準構成 2 BSC 回線と LAN 接続(ダイヤルアップルータ)の組合せの場合

[DCE モード用]



全銀 TCP/IP 手順の一次局(発信側)をダイヤルアップルータ等のネットワーク経由で着信し、コンバータで TCP/IP→BSC 変換を行ってホスト側へ接続します。(対ホスト側は、項番(1)と同じ処理を行います。)

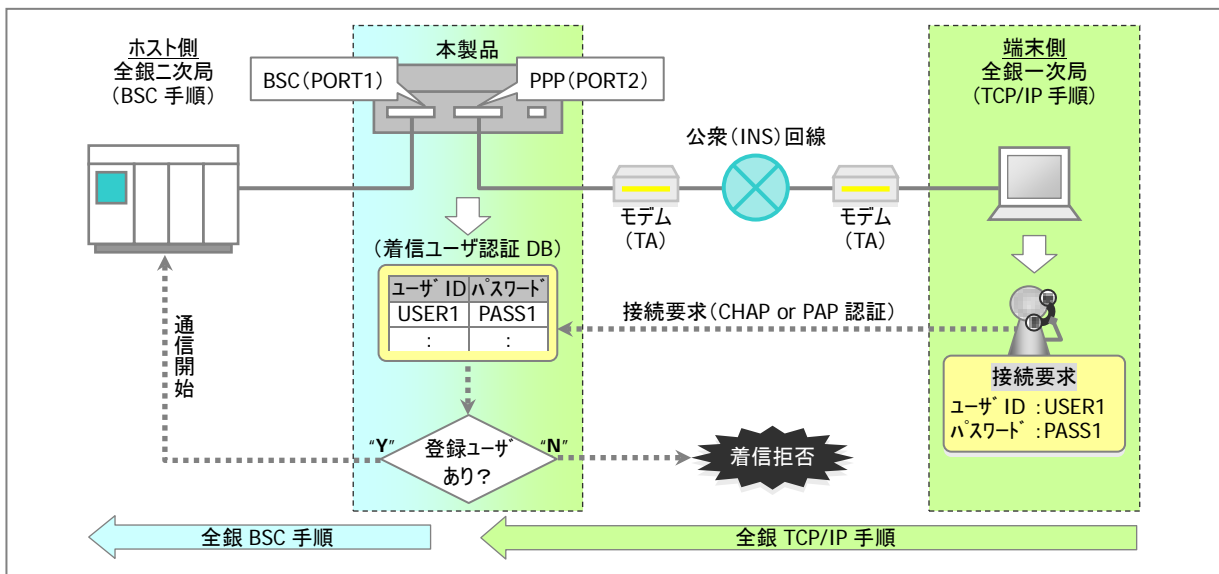
DCE モードでのオプション機能について

DCE モード時、使用可能なオプション機能は、以下のような種類があり、それぞれを組合せて使用可能です。

項番	オプション(サポート)項目	備考
1	ダイヤルアップ接続(PPP 接続)着信ユーザの認証オプション(PAP/CHAP)	標準最大登録件数 1000 件 (御相談により変更可【最大 2000 件】)
2	BSC ホスト側 V.25bis(X.21ダイレクトコール)発信オプション	標準最大登録件数 500 件 (御相談により変更可【最大 1000 件】)
3	BSC 側の 2 回線サポートオプション	LAN接続(ダイヤルアップルータ)との組み合わせのみ可
4	PPP 回線と LAN の同時使用オプション	どちらか一方(PPP 回線/LAN)が通信中の場合は、他方は接続拒否になります
5	X.21 インターフェイスオプション	変換コネクタで対応

1 着信ユーザの認証オプション(PAP/CHAP)について

[DCE モード用]



標準構成(1)の構成において、全銀 TCP/IP 手順からの発信要求に対して、接続出来る相手を制限したい場合に使用します。相手を制限する為の認証方式は、

- 認証を行わない
- PAP 方式で認証を行う
- CHAP 方式で認証を行う

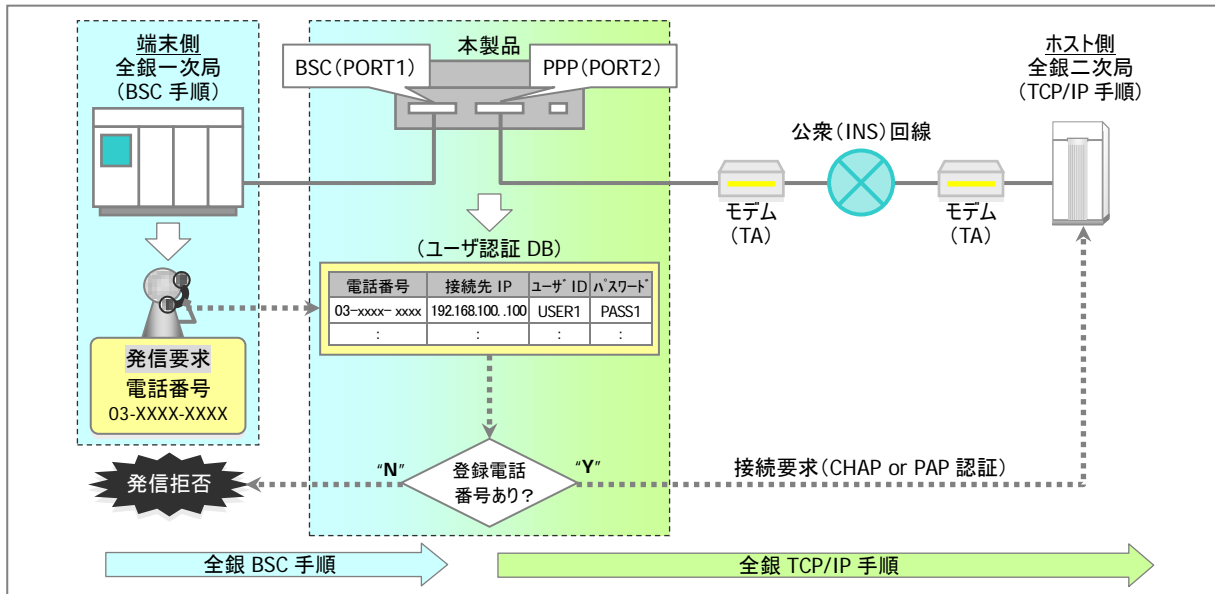
の何れかを選択出来ます。

注意

ユーザ毎に PAP/CHAP 認証を振り分ける事が出来ませんので認証を行う場合は、PAP 又は CHAP で統一して頂く事になります。又、認証を行うユーザは、コンピュータ内部に登録しますので追加する場合は、その都度、工注設定プログラムより追加して頂く必要があります。

2 BSC 側 V.25bis(X.21 ダイレクトコール) 発信オプションについて

[DCE モード用]



ホスト側より、全銀 TCP/IP 手順二次局へ接続したい場合に使用します。本オプションは、ホスト側より V.25bis 発信手順(X.21

オプション使用時は X.21 ダイレクトコール手順)での発信要求をコンバータで受信後、ダイヤルアップ接続 (PPP 接続)か、LAN 接続で相手先の全銀 TCP/IP 二次局へ BSC→TCP/IP 変換を行って接続します。

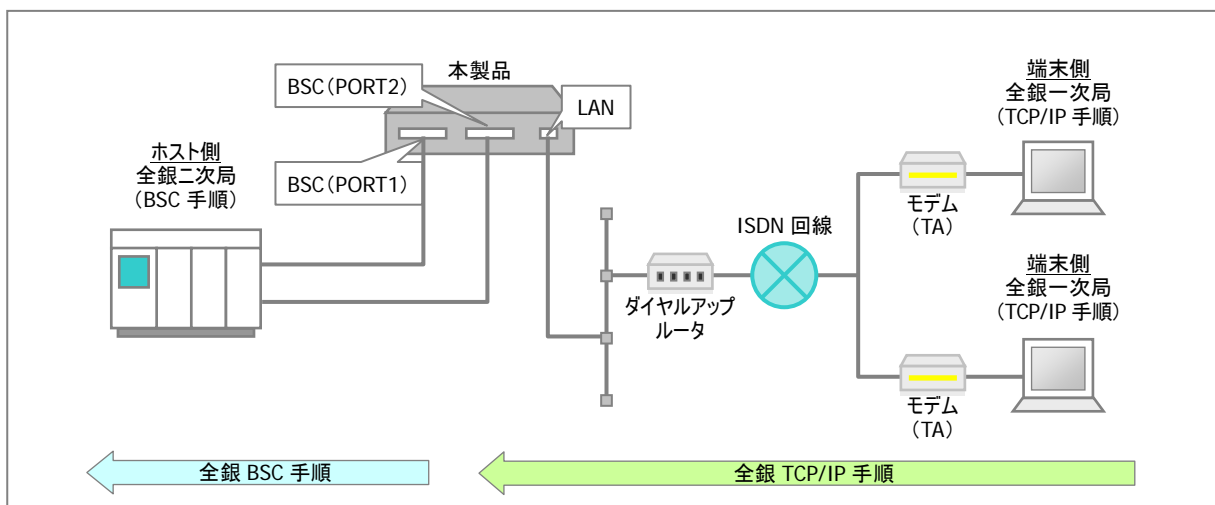
ダイヤルアップ接続 (PPP 接続)の場合は、PAP か CHAP 認証での接続も可能です。

注意

接続相手先についての条件は、ホスト側からの電話番号をキーにしてコンバータ内部へ登録しますので、接続先が追加になる時は、その都度、工注設定プログラムにより追加して頂く必要があります。

3 BSC 側の 2 回線サポートオプションについて

[DCE モード用]



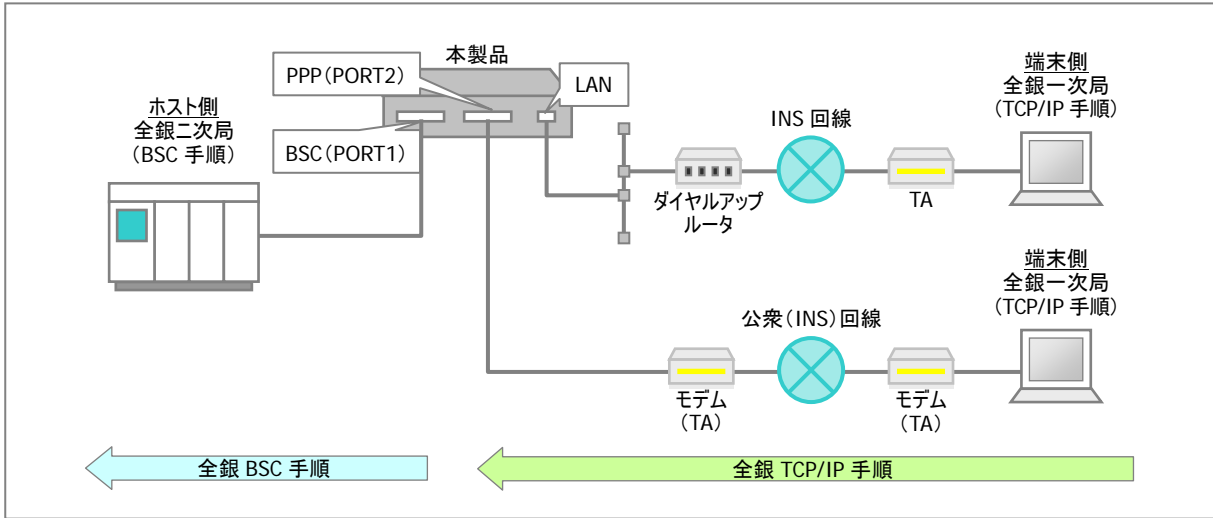
LAN 接続 (ダイヤルアップルータ接続)の場合に有効となるオプションで、1 台のコンバータで、同時に 2 回線使用することが出来ます。

参考

LAN 側 IP アドレスは、2 回線共有、もしくは回線毎に設定が可能です。

4 PPP 回線と LAN の同時使用オプションについて

[DCE モード用]



このオプションは、標準構成(1)と(2)を同時に使用する場合に設定するオプションです。

注意

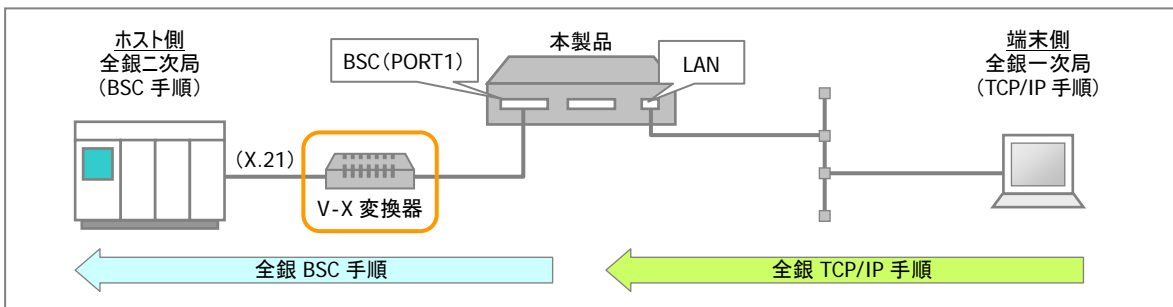
ホスト側への接続は 1 回線ですので、WAN 側 (PPP 接続) と LAN 側 (ダイヤルアップルータ接続等) の何れか一方が通信中の場合は、もう一方は使用不可となります。

5 X.21 インターフェイスサポートオプションについて

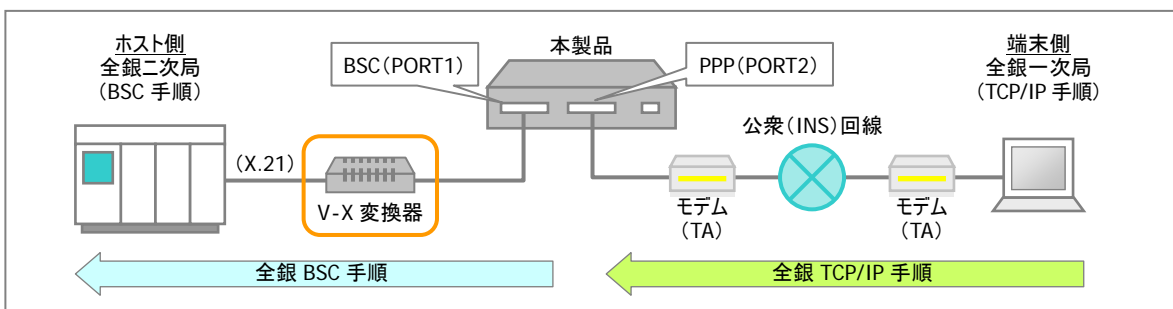
[DCE モード用]

ホスト⇄コンバータ間に、V-X 変換器を用いて、X.21 インターフェイスで接続します。
(V.24⇄X.21 インターフェイスの物理変換)

① LAN 構成例



② PPP 構成例



DTE オプション対応構成 [DTE モード用 … WAN 側が全銀 BSC 手順の場合]

DTE モードでのオプション機能について

DTE モード時、使用可能なオプション機能は、以下のような種類があり、それぞれを組合せて使用可能です。

項番	オプション(サポート)項目	備考
1	DTE モードオプション	DTE モード動作時の必須オプション
2	BSC 側の 2 回線サポートオプション	1 台で 2 回線分使用する場合必要
3	X.21 インターフェイスオプション	変換コネクタで対応

※項番 4・5 については、P.20 以降を参照

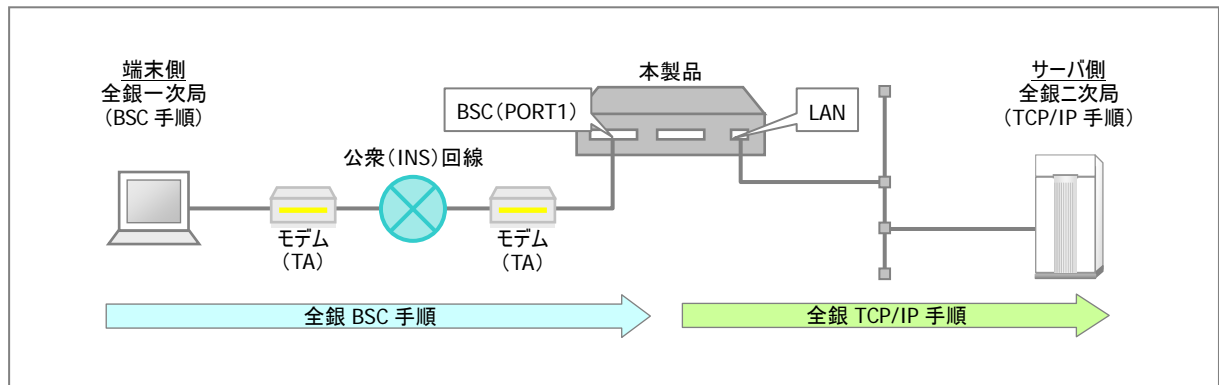
4	DTE ダイヤル情報指示オプション	複数の相手先へ切替えて接続する場合の方式 1 案
5	DTE モードマルチ IP 対応オプション	複数の相手先へ切替えて接続する場合の方式 2 案

DTE モードをご使用になる場合の注意事項

DTE モードをご使用になる場合、BSC 側でデータ遅延が発生し全銀 TCP/IP 側での無通信タイムアウトが発生する可能性がありますので、全銀 TCP/IP 側の無通信タイマーを全銀規定の 30 秒より 120 秒程に変更してご利用ください。

1 基本構成について

[DTE モード用]

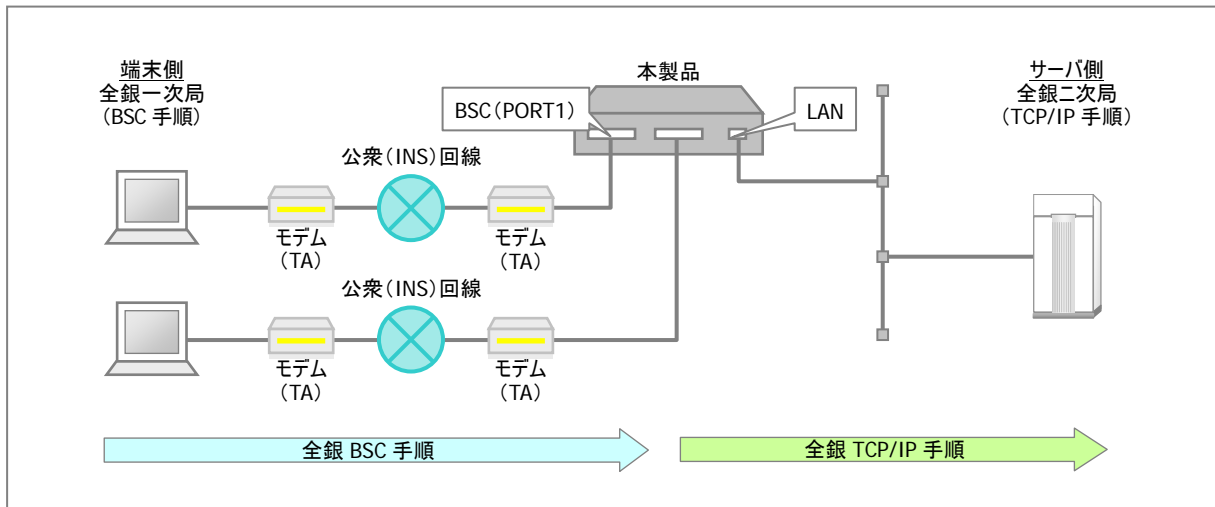


注意

PPP で使用しているモデム及び TA は、本構成では使用出来ません。
全銀 BSC 手順で使用可能なモデム及び TA を使用してください。

2 BSC 側の 2 回線サポートオプションについて

[DTE モード用]

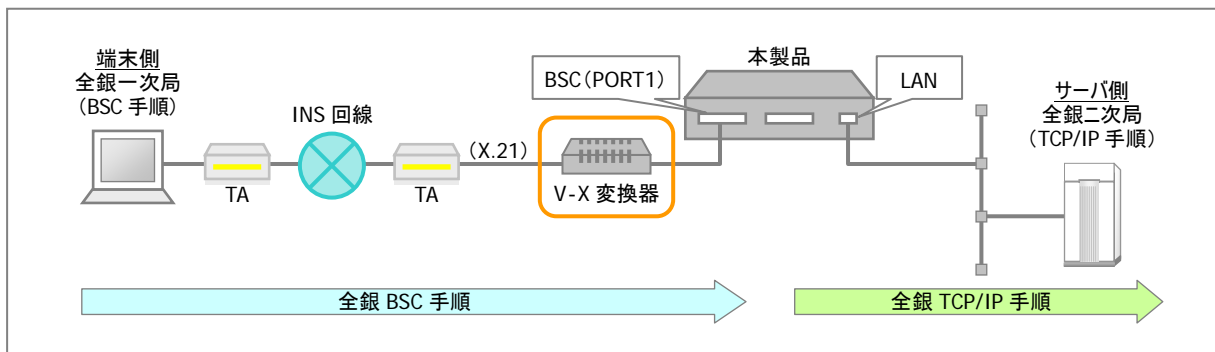


1 台で同時に 2 回線使用することが出来ます。

注意 LAN 側 IP アドレスは、2 回線共有もしくは回線毎に設定が可能です。

3 X.21 インターフェイスサポートオプションについて

[DTE モード用]



TA⇄コンバータ間に、V-X 変換器を用いて、X.21 インターフェイスで接続します。
(V.24⇄X.21 インターフェイスの物理変換)

DTE ダイヤル情報指示オプション/DTE モードマルチ IP 対応オプションについて

■全銀 TCP⇒全銀 BSC への複数相手先切替処理概要

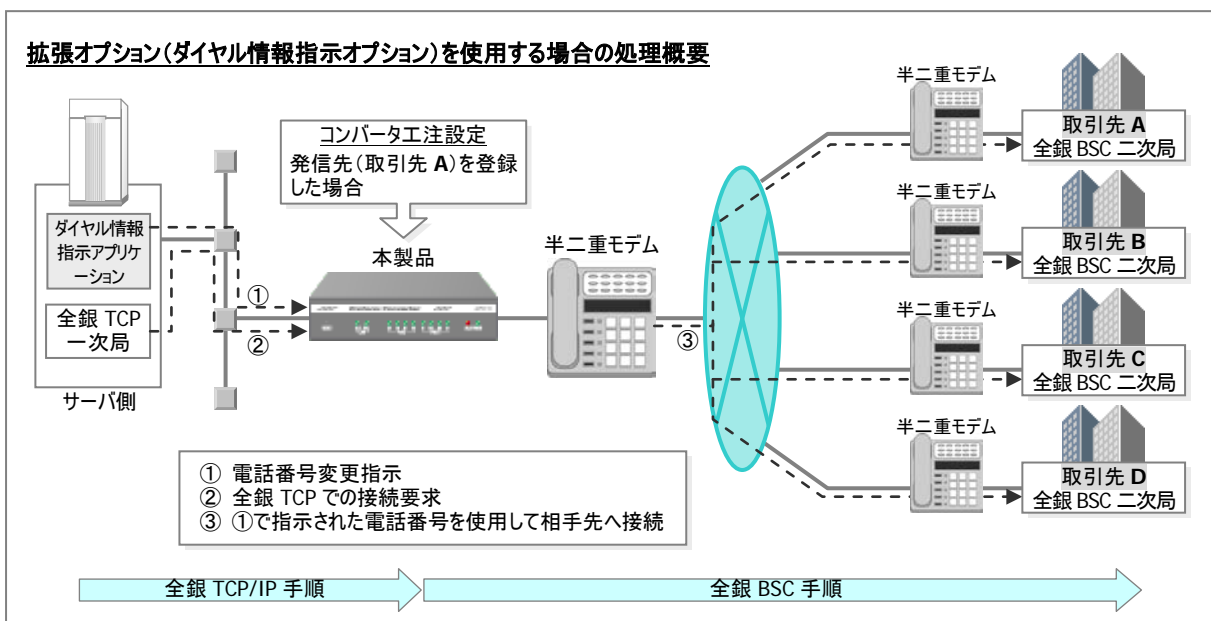
本オプションは、全銀 TCP より全銀 BSC 側へダイヤル発信を行う相手先が複数ある場合に使用するオプションです。
下記方式より、ご適用可能な方式を選択してください。

項番	切替方式	必須オプション	備考
4	方式 1 全銀 TCP 側個別アプリケーションによる別ソケット I/F での接続先ダイヤル情報切替方式	[OPTION-10] DTE ダイヤル情報指示サポート	<ul style="list-style-type: none"> 全銀 TCP 側環境に個別アプリケーションを別途作成する必要あり 接続先切替処理と全銀 TCP 通信が独立している為、間違った相手先に接続する可能性あり
5	方式 2 待受け用複数 IP アドレスにより接続先ダイヤル情報切替方式	[OPTION-12] DTE モードマルチ IP 対応	<ul style="list-style-type: none"> 接続先が 20 件より多い接続先については対応不可 同一セグメント内で IP アドレスを複数使用する為、IP アドレスの空きが必要
	方式 3 弊社全銀 TCP 製品によるダイヤル情報切替方式	[OPTION-10] DTE ダイヤル情報指示サポート + 弊社全銀 TCP 一次局製品	<ul style="list-style-type: none"> Windows 製品のみ 他社製全銀 TCP では使用不可

4 方式 1 DTE ダイヤル情報指示オプションでの接続先ダイヤル情報切替方式 [DTE モード用]

TCP 側アプリケーションとの独自インターフェイスを設け、全銀 BSC 側への接続先電話番号を TCP 側アプリケーションより取得し、次回通信時に切替えたダイヤル情報を使用する方式です。

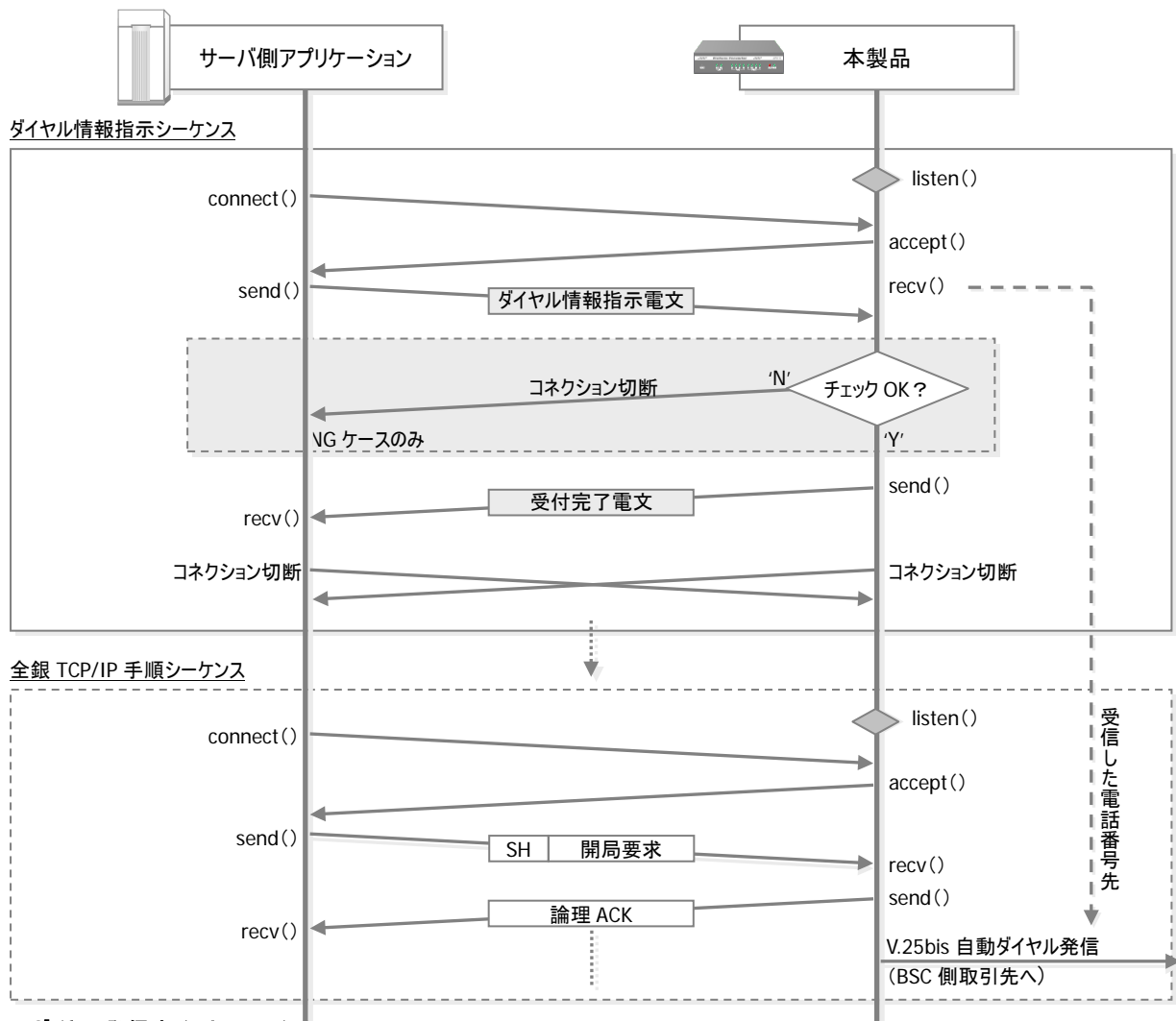
- Point 1 : 全銀 TCP 端末製品は、メーカー及び製品を問いません。
- Point 2 : 別途ダイヤル情報切替アプリケーションを用意する必要があります。
- Point 3 : 全銀 TCP 通信と別ソケットで切替処理を行う為、運用に注意する必要があります。
(ダイヤル情報切替処理と全銀 TCP 通信を連動して動作させること)



■ダイヤル情報取得シーケンス

下記シーケンスの手順により、TCP/IP 側アプリケーションよりダイヤル情報を取得します。

受信したダイヤル指示情報の電文フォーマットが不正だった場合は、受付完了電文を送信せずに、コネクションを切断します。



■ダイヤル発信先インターフェイスについて

接続条件は下記の通りとなります。

接続条件

項番	項目	設定値	説明
1	プロトコル	TCP	コンバータが、着信側になります。
2	IP アドレス	各コンバータの IP アドレス	IP アドレスは、工注設定で行います。
3	ポート番号	11112	左記ポート番号固定となります。

ダイヤル情報設定電文フォーマットは下表の通りです。

①ダイヤル情報指示フォーマット

ヘッダ部 (8Byte)		データ部 (最大 42Byte)	
項目番号 (1Byte)	予備 (5Byte)	データ長 (2Byte)	ダイヤル番号 (最大 42 バイト)
0x08	未使用 (0x00)	0x2A	ASCII 文字列 (最大 42 文字、Null (0x00) 終端)

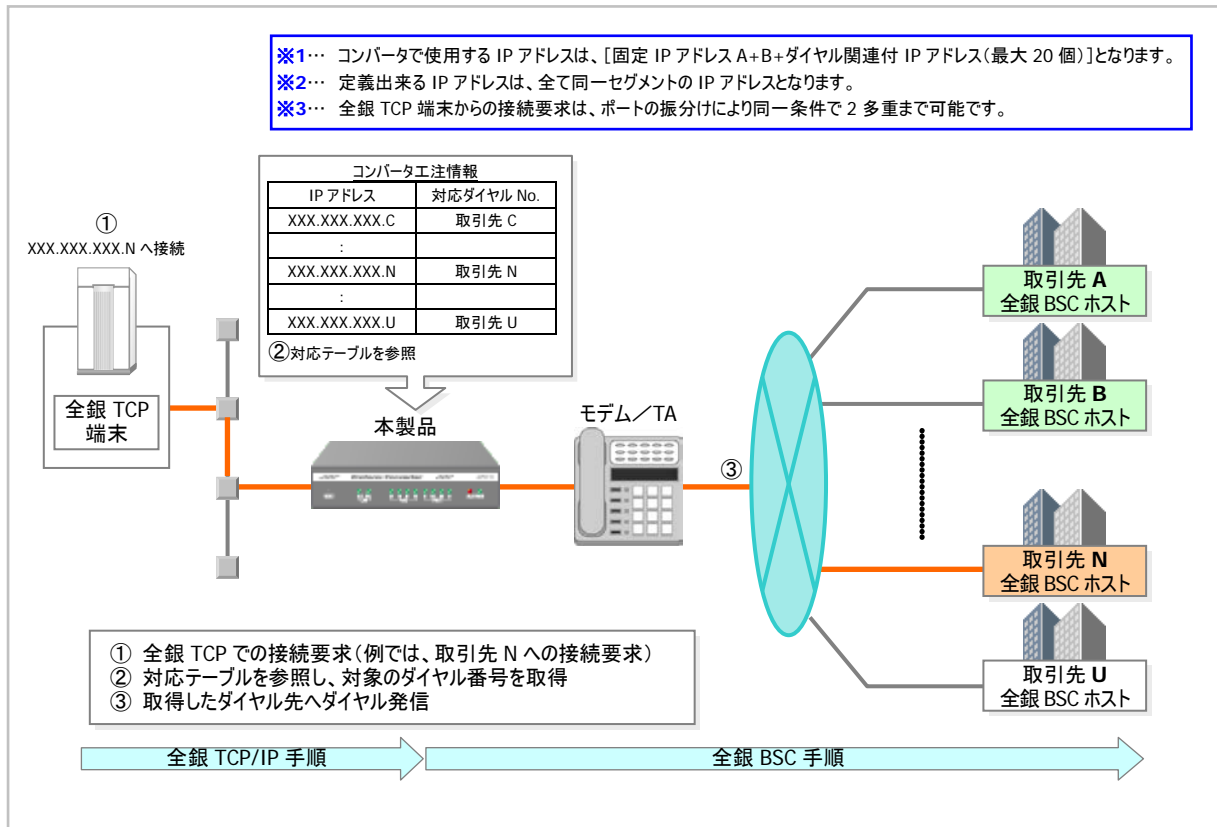
②受付完了電文フォーマット

ヘッダ部 (8Byte)		
項目番号 (1Byte)	予備 (5Byte)	データ長 (2Byte)
0x08	未使用 (0x00)	0x00

本製品内に複数 IP アドレス(最大 20 個)での待受けを行い、IP アドレスと発信先ダイヤル情報を関連付けたテーブルより、複数相手先へダイヤル発信が可能になります。

- Point 1 : 全銀 TCP 端末製品は、メーカ及び製品を問いません。
- Point 2 : 最大 20 相手先/台まで設定可能です。(同一セグメント内で空き IP アドレスが個数分必要です。)
- Point 3 : CH1/CH2 を共有して振分けて、相手先へのダイヤル発信が可能です。(CH 優先設定も可能です。)

【処理概要】



【ダイヤル拡張情報設定画面例】



方式 3 DTE ダイヤル情報指示オプション + 弊社全銀 TCP 製品による接続先ダイヤル情報切替方式

弊社製品を使用することにより、全銀 TCP より本製品を経由して、全銀 BSC 手順の相手先へ接続する場合、複数相手先へダイヤル発信が可能になります。

- Point 1 : 相手先通信条件とダイヤル情報の管理を一元化出来ます。
- Point 2 : 相手先の切替及び接続から通信までを一回のアクションで行うことが可能となります。
- Point 3 : 本製品を全銀 BSC 手順用を混在して使用可能となります。

